

ホクコーダッシュワン®1 キロ粒剤

■種類名：ダイムロン・ペントキサゾン粒剤
 ■有効成分：ダイムロン-----15.0%
 ペントキサゾン-----2.0%
 ■PRTR法指定物質：ポリオキシエチレンポリフェニール [第1種] -----1.6%

■登録番号：第21526号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：2005.07.20
 ■性状：類白色細粒
 ■有効年限：4年
 ■包装：1kg×12袋、10kg×1袋

【特長】

- ノビエに対する残効が長いペントキサゾンと、ホタルイなど、カヤツリグサ科雑草に効果の高いダイムロンを配合した初期除草剤。
- 2成分の組合せにより、ノビエをはじめとする一年生雑草ならびに多年生雑草に高い効果を発揮する。
- クログワイに高い効果を示す。

【適用内容】(2014年10月末日現在)

| 作物名 | 適用雑草名 | 使用時期 | 適用土壌 | 使用量 | 本剤の使用回数 | 使用方法 | 適用地帯 |
|------|--|---|----------------|-------------|---------|-----------------------------------|------------------------|
| 移植水稲 | 水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ (東北・関東・東山・東海・近畿・中国・四国) ヘラオモダカ (北海道・東北・北陸) クログワイ (関東・東山・東海) | 移植時 | 砂壤土 ～ 埴土 | 1kg /10a | 1回 | 田植同時 散布機で 施用 | 全域の普通期 及び早期栽培地帯 |
| | | 移植直後～ノビエ1葉期 但し、 移植後30日まで | | | | 湛水 散布 | 北海道、九州の普通期 及び早期栽培地帯 |
| | | 植代後～移植前7日 又は 移植直後～ノビエ1葉期 但し、移植後30日まで | | | | 全域(北海道、九州を 除く)の普通期及び 早期栽培地帯 | |

| ダイムロンを含む農薬の総使用回数 | ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数 |
|-----------------------------------|--------------------|
| 3回以内 (育苗箱散布は1回以内、 本田では2回以内) | 2回以内 |

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- 本剤は雑草の発生前から生育始期に有効なので、ノビエの1葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので必ず適期に散布するように注意する。ホタルイ、ヘラオモダカは発生前から発生始期まで、ミズガヤツリ、クログワイは発生前までが本剤の散布適期である。
- クログワイ防除は有効な後処理剤と組合わせて使用すること。また、クログワイについては、有効な後処理剤と組み合わせて連年施用することにより効果が向上する。
- 苗の植え付けが均一になるように、整地、代かきは丁寧に言い、ワラくずなどの浮遊物はできるだけ取り除くこと。また、未熟有機物を施用した場合は特に丁寧に言うこと。
- 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm程度)を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないようにすること。また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出する間際になったら、水戻は止めたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。
- 苗が水没するような深水状態では、葉鞘部に軽い褐変症状が出るおそれがあるので、水管理に注意すること。
- 軟弱徒長苗を移植した水田、極端な浅植えや深植えをした水田、砂質土で漏水の大きな水田(減水深2cm/日以上)では、初期生育の抑制が生じるおそれがあるので使用を避けること。
- れんこん、くわい、せりなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
散布後は水管理に注意すること。
散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また空袋は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。